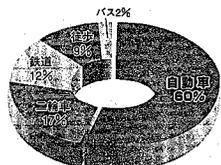


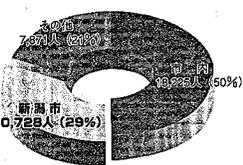
自転車利用環境総合整備事業基本計画の概要

図4 新津市周辺の主な交通手段



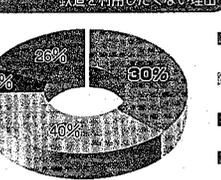
(資料: H1新潟都市圏パーソナルトリップ調査)

図3 新津市に住む通勤者の割合



(資料: H7国勢調査)

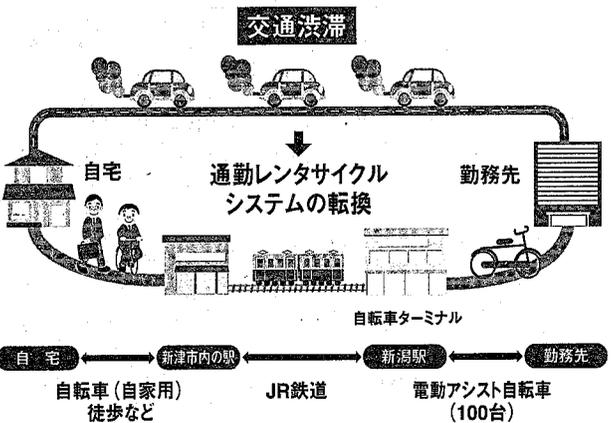
図5 新潟市への通勤・通学で鉄道を利用したくない理由



- 電車を下車してからの交通が不便
- 時間的に短絡されず、余計にかかる
- 鉄道運賃など経済的負担が増す
- その他

(資料: H7国土庁直轄調査)

図6 社会実験(R&B N2)のイメージ



エコ自転車通勤システム R&B N2

モニター募集

くわしくは、広報に折り込まれたチラシをご覧になるか、都市整備課内の「R&B N2モニター募集係」(自24-2111、内線578)へお問い合わせください。

自転車

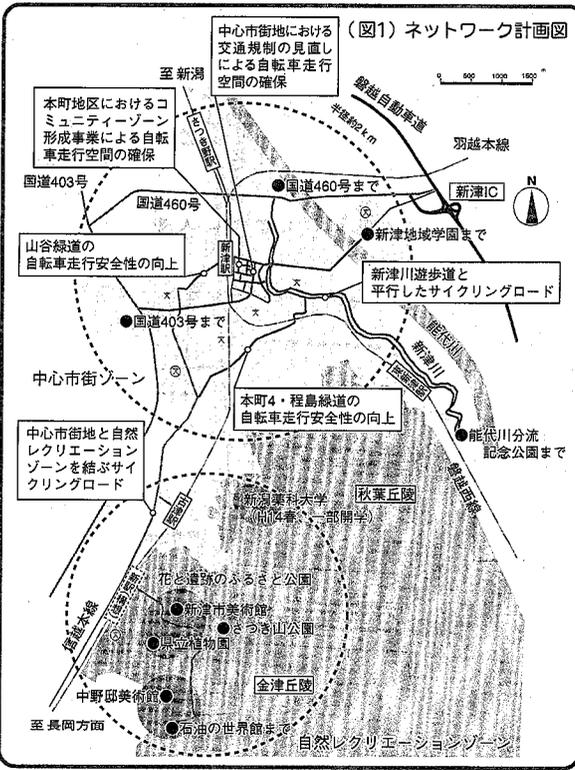
環境にやさしい

まちにやさしい

人にやさしい

あなたもスマート通勤始めませんか?

市では、人やまち、環境に優しく手軽な交通手段である自転車をもっと活用してもらおうと、平成11年12月に建設省から「自転車利用環境整備モデル都市」の選定を受けるとともに、基本構想の策定作業を進めてきました。このほど基本計画が策定されましたので、お知らせします。



「自転車利用環境総合整備モデル事業」は、新潟市のまちづくりの基本目標を実現するための施策の一つとして、平成十二年度から十五年度までの四か年で整備されます。

具体的な整備効果としては、次の三つの「やさしい」が期待できます。

●環境にやさしい：マイカー通

●まちにやさしい：小回りの利便性。自転車を利用することで、今まで駐車スペースが乏しいために避けがちな中心商業地の利用が増えることが期待できます。また、通行に障害をきたす路上駐車もなくなり、まちの景観も良くなります。

●人にやさしい：自転車に乗ることで運動不足の解消が図ら

●自転車利用環境をより快適にするために

基本計画は、自転車道ネットワーク(図1)や案内標識などを整備する「ハード事業」と、雨の日の自転車利用環境を向上させるための用具レンタルの実施

自転車はまちづくりの大事なキーワード

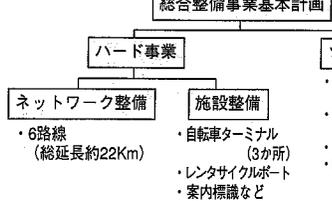
通勤者が減ることにより、渋滞の解消や環境への負担の低減が期待できます。

●まちにやさしい：小回りの利便性。自転車を利用することで、今まで駐車スペースが乏しいために避けがちな中心商業地の利用が増えることが期待できます。また、通行に障害をきたす路上駐車もなくなり、まちの景観も良くなります。

●人にやさしい：自転車に乗ることで運動不足の解消が図ら

れ、健康にも良い効果が期待できます。また、渋滞によるイライラが巻き起こす交通事故の低減も期待できます。

図2 自転車利用環境総合整備事業基本計画



新潟市の現状と課題

現在、新潟市は新潟市の衛星都市の性格もあり、毎日一万人以上の市民が新潟市へ通勤・通学しています(図3)。

通勤には圧倒的に自動車が使われており、朝夕のピーク時には新潟市の周辺部において交通渋滞が発生しています(図4)。

特に、国道四〇三号の交通量は日に一万四千台を超え、渋滞が慢性化しています。地形的には三方を川に囲まれていることから、朝夕はそれぞれの橋が通行のネックになっています。その一方で、「鉄道のまよ」として栄えて市内に六つの駅を持ち、一日百五十七本の列車が運行されるながらも、近年は乗降者が著しく減っています。

また、平成七年度に実施したアンケート調査では、「新潟市へ

の通勤・通学で鉄道を利用したくない理由」について、「鉄道を下車してから交通が不便」と答えた人が三〇%あり、二次的の確保が課題となっていました(図5)。

社会実験を行って課題解決へステップ

市では、自転車の利用環境整備と併せ、最も多い新潟市への通勤者の新たな通勤システムを提案する、自転車を利用した社会実験「エコ自転車通勤システムR&B N2」を十月から行います。これにより、自転車利用のための環境整備だけでなく、イタ的な課題の解決を目指し、空域化が進む中心商業地の活性化も図ります。

「エコ自転車通勤システムR&B N2」構想

新潟市内の最寄り駅まで各自自転車や徒歩などで来てもらい、新潟駅からは用意した百台の電動アシスト自転車を利用して通勤・通学します(図6)。電動アシスト自転車を利用することにより、二酸化炭素の排出を抑えながら

通勤圏を広げることができます。用具の無料レンタルと個人の用具の預かりサービスも行う予定です。自宅から勤務先までを自家用車以外の交通機関でカバーすることがあります。利用者にはレンタサイクルの利用料として、新津商店街協同組合連合会発行の商品券(実費用に新設)を購入してもらい、商店会では

レンタサイクルシステムの維持・管理に協力します。

実験中は本格実施に向けた改善の材料とするため、利用者の料金やシステムに対する評価、雨の日の自転車利用率に関するアンケートのほか、渋滞の状況や利用状況、商品券の利用状況などの調査を行う予定です。